

はじめに

この冊子は、国立大学法人等職員を志す皆さんが、より多くの職員の声に接することで、仕事へのイメージ作りや試験準備の一助となるように、という願いをこめて作成しました。

【若手職員の声】は、平成18年8月から平成20年4月までに関東甲信越地区の国立大学法人等機関へ採用された者を中心とする、フレッシュな職員を執筆者に選びました。年齢的にも皆さんと物の感じ方が近く、試験の記憶も新しい若手職員の声をお届けします。思いや経験をありのままにお伝えするために、所属機関名と氏名はあえて伏せてあります。所属課名は、仕事内容を端的に表現したものが多いため、参考に載せました。

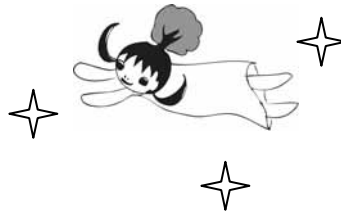
【用語集】は、【若手職員の声】で使用されている言葉のうち、一般には馴染みがないと思われる言葉を、関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試験事務室が解説したものです。分かりやすさを第一に作成したため、厳密さには欠けるところがありますが、おおよその意味をつかむのにお役立ていただければと思います。用語についてさらに詳しくお知りになりたい場合は、ご遠慮なく関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試験事務室へお尋ねください。

国立大学法人等職員が目指す人材像は、経営企画を担う人材であったり、教育研究を支援する人材であったり、専門的業務を遂行する人材であったり、幅広く深いものです。このような職員が活躍することによって、国立大学法人等における教育と研究が、グローバルかつ世代を超えて実り豊かに進展するものと考えます。

この冊子を手にした皆さんが私どもの仕事の魅力の一端に触れ、また、本冊子が国立大学法人等職員を志す皆さんの道しるべとなることを願ってやみません。

関東甲信越地区国立大学法人等
職員採用試験実施委員会幹事会採用試験事務室

目 次



【はじめに】

【若手職員の声】

- 03 評価・広報課 R.I.
- 06 総務課 N.I.
- 09 財務課 Y.I.
- 11 経理課 M.Y.
- 14 総務課契約係 M.S.
- 16 企画監査課 T.Y.
- 18 教育支援課 M.S.
- 20 学務課 S.G.
- 22 学生支援課学生生活係 K.S.
- 25 産学連携課外部資金係 A.Y.
- 28 研究協力課 R.F.
- 31 国際課 S.B.
- 34 学生支援課留学生担当 K.I.
- 37 歯学部業務課 T.K.
- 39 情報図書館課 H.M.
- 42 施設・資産系本部プロジェクトグループ（建築） N.E.
- 44 施設管理課 K.T.
- 46 情報センター系 M.H.
- 48 技術室（機械・制御系）Y.O.

採用試験事務室ひとくちメモ(コラム)

- 13 仕事の概要まとめ
- 24 試験内容確認
- 27 スケジュール確認
- 33 受験申込みの注意点

【用語集】

所属課名： 評価・広報課

名前： R.I.

性別： 女

Q1.今の仕事について、内容や担当を教えてください。

私の主な仕事は、月一回発行し全教職員に配る学内広報誌の作成と、毎日のホームページの更新、来春公開に向けてのPC用・携帯用ホームページのリニューアル作業です。その他にも定期的に、外部からの電話・メール問い合わせ対応や、文部科学省や各雑誌から依頼されるアンケート調査の回答、イベント時の写真撮影、学内向けメルマガ発信等もしています。

広報誌やホームページ等の広報媒体は、話題となる教職員やライターに執筆依頼をし、貰った原稿を編集して業者とともに作成します。私が記事を書く時もありますが、大抵は、執筆者と編集者が分かれるため、大勢の人々と関わることになります。ホームページリニューアル作業やアンケート調査も、概ね依頼と取りまとめの繰り返しです。そのためいつも複数の締め切りを抱えており、情報をやりとりすることが多いので、一日で100通近くのメールが来る時もあります。締め切り間際になると、こちらも迅速な対応が求められる事が多く、仕事の優先順位を常に考えながら仕事をしています。

Q2.なぜ国立大学法人等職員になろうと思いましたか。

実は私は、最初から国立大学法人等職員になろうとは思っておらず、地方公務員になろうと思っていました。公務員試験の練習のために国立大学法人等職員試験を受けたのですが、その過程で大学事務の内容を知るうちに魅力的に感じるようになり、最終的にこの職を選びました。魅力を感じた点はいくつかありますが、その中でも大きいものは、大学という職場環境の良さと、女性でも無理なく一生続けられる仕事に思えたことです。私はずっと働き続けたいという強い希望がありましたし、機関によって環境は異なるかもしれませんが、緑の多い大学キャンパスを見て、“このような職場ならばストレスがたまらずに働けるだろう”と確信しました。また、

常に研究や教育の最先端に触れているというのも、知的好奇心を満たす上では魅力的でした。

Q3.仕事をしていて良かったことを教えてください。

自分が手がけたものが、大量に印刷されて配布されたり、ウェブ上に公開されたりして多くの方の目に触れるという事は、大変嬉しいことです。勿論、それが情報源となる以上、不適切な内容であってはならないという責任は重いですが、それもやり甲斐になります。

また、情報を発信するという仕事である都合上、自分の元に学内のいろいろな情報が集まってくる事も良かったことの一つです。例えばアンケート調査は、時期によっては深夜まで集計をしなければならない大変な仕事ですが、それによって自分が勤めている大学の実態が判ります。同様に、さまざまな記事を編集することで、自分が勤める大学アピールポイントや裏話等を知ることができるので、見学に来た高校生や一般の方々にちょっとした小話を提供することもできるようになります。

Q4.今後の仕事上の抱負を聞かせてください。

国立大学法人の職員として広報の仕事始めて二年足らず。まだ、大学や大学を取り巻く外部の環境について知らない事も多いため、今は、自分の知識を増やすことを目標にしています。そして、“わからないことがあったらこの人に訊けばいい”と言われるような職員になることが将来の夢です。知識が増えればそのぶん仕事がスムーズに、速くできるということを、先輩職員の方々を見て実感したので、仕事を効率的に行う上でも幅広い知識を持ちたいと思っています。

Q5.第一次試験・第二次試験について教えてください。

第一次試験は教養試験でしたが、私は地方公務員試験のために専門まで勉強していたので、あまり力を入れていなかったと記憶しています。ただ、数的処理と文章理解は、練習すればするほど早く問題が解けるようになるため、毎日、一問でも良いので解くようにしました。

第二次試験は面接でしたが、私は名古屋から東京に受験しに来ていたので、滞在期間の制限があり、合同説明会の段階で面接を受ける大学を三つに絞りました。面接を受けるにあたっての予備知識は主に大学の広報誌やホームページから得るようにし、大きく取り上げられている事項は覚えておきました。「なぜ、一般企業でなく国立大学法人なのか」「なぜ、他の大学でなくこの大学なのか」という質問、それに類する質問は必ず訊かれるので、自分の答えを用意するようにしました。特に私の場合は一般企業に前職経験があり、それを訊かれる事が予想できていたので、その説明を用意していました。

Q6.後輩へのメッセージをお願いします。

変わりゆく社会情勢の中で、社会が大学に期待する役割は、今後どんどん増えていくと予想されます。それに伴い、国立大学法人に勤める事務職員の仕事と責任も増えていきます。現在私が行っている広報の仕事の中にも、ここ数年で急に重要視されはじめたものが多くあります。大学のミッションは研究と教育であり、事務職員の仕事は一言で言えないほど多岐にわたり、どれもやり甲斐のあるものですので、臨機応変に時代に対応しながら、ともにがんばりましょう。



所属課名： 総務課

名前： N.I.

性別： 女

Q1.今の仕事について、内容や担当を教えてください。

人事係で給与に関する業務を担当しています。具体的には、毎月の勤務時間報告書・給与支給額のチェック、諸手当の認定(通勤手当・住居手当・扶養手当等)、ボーナス及び退職手当の算定、昇給、文部科学省等から依頼される給与に関する調査の回答、非常勤職員名簿の作成等を行っています。4月は人事異動や新規採用が多く、諸手当の認定に追われます。5月にはボーナスの準備を始めます。7月には扶養・住居・通勤手当を支給されている人全員に現況届を提出してもらい、支給要件を満たしているかチェックします。12月にはボーナスと昇給の準備が重なります。1月からは、4月に採用される教職員の初任給決定を行うのですが、とても複雑で難しいです。なお、私は採用されてからまだ1年経っていないので、経験していない業務もあります。

仕事上関わる相手は、同じ総務課の給与係や職員・共済係、各学部等の庶務担当係が中心です。大学で働いてはいるものの、教員や学生と直接関わる機会はほとんどありません。

Q2.なぜ国立大学法人等職員になろうと思いましたか。

私は就職先選択にあたり、自分が何をやりたいかよりも、どのような職場で働きたいかを重視していました。元々大学の持つ自由な雰囲気が好きでしたし、大学で働くことは早くから将来の選択肢の一つでした。ただ、漠然と大学で働いてみたいとは思っていたものの、国立大学法人等職員の全体説明会に参加した時点では、まだ選択肢の一つにすぎませんでした。それが、その後個別説明会に参加したことで、明確に「この大学で働きたい」と思うようになりました。学内見学で感じた大学の雰囲気や、教員と職員の関係が他大学とは異なるといった説明に惹かれたのです。

Q3.仕事をしていて良かったことを教えてください。

この大学に所属できたこと自体が、私にとって良かったことです。自分の卒業した大学とはまったく違う魅力がありますし、あまり大きくない規模も自分には合っていると思います。仕事は、想像していたよりもずっと大変ですが、それでも「楽しい」と思えるのは、この大学だからだと思います。私にとって、この大学より働きやすい職場はないと思っているほどです。

人事係で良かったと思うことは、規則が覚えられることです。私は大学で心理学を専攻していたため学生時代に法律に触れる機会がなかったのですが、一読しただけでは理解できない複雑な規則も、業務上使っていくうちに少しずつ慣れてきました。

また、普通に生活していても出会えないような有名な教員方にお目にかかることは、貴重な体験だと思います。新人であっても親睦会等で学長と直接お話ができることも、この大学の職員ならではの感じます。

Q4.今後の仕事上の抱負を聞かせてください。

現在は事務局に所属しているので、今後は教員や学生と直接関われる業務を経験してみたいです。将来的には、自分の所属する課・係のことだけでなく、幅広い視野をもって常に大学全体のことを考えられる職員を目指しています。そのためには、一つか二つ専門分野を持っていて、それ以外の分野についても幅広く把握していることが必要だと思います。第一希望の大学に就職できたので、採用当初は出向したくないと考えていました。しかし、それでは視野が狭くなってしまふ恐れがあるため、採用から10ヶ月経った今では、出向先で何年か経験を積み、そこで得たものを大学に戻って生かすことができると考えています。

Q5.第一次試験・第二次試験について教えてください。

第一次試験は教養試験のみで、他の公務員試験勉強と重複していたので、国立大学法人等職員採用試験のために特別に準備したことはありません。

第二次試験は、複数の面接官による個別面接でした。合同説明会の2日

後に開催された大学の個別説明会の後に連絡があり、翌日が面接でした。連絡を受けた時点では、まだ履歴書すら用意しておらず、面接の準備をする時間はほとんどありませんでした。そのため、素直に「この大学で働きたい」という気持ちを伝えるしかなかったことが、かえって良かったのかもしれません。内定の連絡は、その日のうちにいただきました。

Q6.後輩へのメッセージをお願いします。

私は、自分のやりたいことは二の次にして、「ここで働きたい」と思える職場を探していたら、この大学に出会えました。やりたいことができる職場かどうかは働いてみないと分からないし、やりたいことができると思っていた職場であっても、配属によっては叶わないこともあります。やりたいことにこだわりすぎると、就職してから「こんなはずではなかった」と落胆するかもしれません。大学職員を目指す方の中には、学生とかかわる仕事をしたいと思っている方も多いと思います。しかし、実際は学生とかかわるのは大学全体の業務のほんの一部であり、そうでない業務の方が多いのです。ですから、就職前に考えていた「やりたいこと」とは違う仕事をする事になったとしても前向きに取り組めるように、「どんな仕事をする事になってもここで働きたい」と思える機関を選ぶと良いのではないのでしょうか。



所属課名：財務課

名前：Y.I.

性別：女

Q1.今の仕事について、内容や担当を教えてください。

主に、1年間の財務の状況を表す財務諸表の作成を行う仕事を行っています。そのため、決算期の3～6月の時期が特に忙しくなる部署です。その他には、様々な省庁から来る調書の作成や、各地にある施設との間で会計に関する監査、監査法人や税理士への対応を行っています。

Q2.なぜ国立大学法人等職員になろうと思いましたか。

何かを研究する人の近くで、支援をしながら自分も刺激を受けて働きたいと思っていました。そのために、大学の他に研究機関や独立行政法人の採用も行っているため、より幅広い選択ができる国立大学法人等採用試験を受験しました。

受験のためにいろいろな法人を調べていたときに、将来的に仕事と家庭を両立させて長く働けそうだと感じたところも、受験を決める要素の一つになりました。

Q3.仕事をしていて良かったことを教えてください。

本部業務を行っているため、各地にある施設の方々と仕事のやりとりを通じていろいろなことを学べることや、公認会計士や税理士の会計の専門家に接して刺激を得られることは、今後の自分への蓄積になると思っています。周囲の方々から向上心をかき立てられる環境にあることが良いことだと思います。

Q4.今後の仕事上の抱負を聞かせてください。

配属されてからのこれまでは、専門的知識の習得や仕事の取り組み方・組織について学び、考える時期であったと思っています。これからは、その経験を基にして、自分なりの取り組み方やより詳しい知識の習得を目指

す時期にしたいと思っています。将来的には、いろいろな分野の仕事に従事し、幅広い視点で組織全体を見られるようになりたいです。

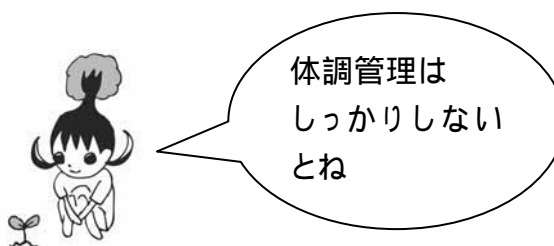
Q5. 第一次試験・第二次試験について教えてください。

一次試験は教養科目のみの筆記試験でした。他の公務員試験のために専門試験も勉強していましたので、その合間に気分転換も兼ねてこまめに幅広い科目の勉強をしていました。私は書いて覚えるタイプなので、一冊のテキストに他のテキストの情報も抜き出して記入し、自分なりのテキストをつくって覚えています。

二次試験は、私の受験した法人は、面接官複数人に対して一人で面接を行う形式がほとんどでしたが、法人によってはグループディスカッションや同日に面接を2回行うところもありました。やはり、回数を重ねて少しずつ慣れることや、沈黙を恐れずに堂々と答えるように心がけることが大事でした。追加で募集する法人もありますので、まめにHPをチェックすることが採用につながると思います。

Q6. 後輩へのメッセージをお願いします。

この時期、不安になることも多いと思いますが、試験に臨むときは、これまでの努力を思い出してほしいと思います。無理をして体調を崩してしまうとこれまでの努力も水の泡になってしまいますので、体調管理はしっかりと（自己管理能力も仕事では大切なことです。）筆記試験も面接試験も、最後まであきらめない姿勢でがんばってください。



所属課名：経理課

名前：M.Y.

性別：女

Q1.今の仕事について、内容や担当を教えてください。

当初は職員の方や来訪される方の旅行に係る費用（旅費）の計算・支払伝票の作成を担当する係で、主に海外出張に係る旅費や、科学研究費補助金（研究に対して文科省等から交付される補助金）で教員方が学会等に出張する際の旅費の計算業務を担当していました。現在は異動し、同じ課内の出納関係の業務を行う係で、宿舍料金や研究資金等が入金された際の入金伝票の作成や、余剰資金の資金運用に係る仕事を担当しています。

Q2.なぜ国立大学法人等職員になろうと思いましたか。

私の通っていた大学があった街は、大学をはじめとする、学問や研究に関係する機関が非常に多くあり、そこで働いている人がとても多い環境でした。そうした中で生活し、身近な人の話を聞くうちに、私も学術・研究関係の仕事に携わることのできる、またはそのサポートをできる仕事に就いてみたいと思うようになりました。最初は漠然と考えていただけだったのですが、ちょうど自分の通っていた大学を会場として第一次試験が実施されていたことがきっかけとなって、国立大学法人等職員採用試験を受けてみることにしました。

Q3.仕事をしていて良かったことを教えてください。

最初のうちは想像していたよりも遅くまで残って仕事をこなさなければいけないような状況もあり、想像と現実とのギャップに驚かされることもありました。また、日々の単純作業の繰り返しに若干失望したことも何度かありました。

しかし、慣れてきて自分の仕事だけでなく、周りとの関係等が見えてくると、そうした作業であっても、組織全体の仕事の中でなくてはならない業務であることが少しずつわかってきました。今では自分の仕事を着実に

こなすことで、周りの関係各所の方々から感謝されたり、「頑張ってるね。」と声をかけられたりする時に、仕事をしていて良かったと感じます。

Q4.今後の仕事上の抱負を聞かせてください。

現在は新しい係に異動してまだ間もないため、当面は現在与えられている仕事を一人前にこなせるようになることが第一目標です。資金の運用関係の仕事については、知識も経験も不足している面が多く、これから仕事をしながら身につけて行ければと思っています。

その後も、より幅広く経験を積み重ねることによって、もっと組織に貢献していけるような人材になると同時に、自分の技能を磨いていきたいと思います。現在の所属は財務部なので、ここで財務に関係する知識を十分に身に付けた上で、将来的には教員の研究サポート等、別の種類の仕事にもチャレンジ出来ればと思っています。

Q5.第一次試験・第二次試験について教えてください。

国立大学法人等職員採用試験の第一次試験は、一般教養を問う問題のみで、公務員試験等と比べると比較的取り組みやすい試験ではないかと思えます。「そういえば昔習ったような気がするなあ」と高校等で学んだ知識を思い出しながら試験の勉強をしました。

第二次試験は、合同説明会等を通じて自分の受けたい大学や機関を選び、個別にその機関の面接を受けに行くという形のもので、私が受けた第二次試験自体は、面接1回のみでの試験で、部長や人事課長を中心とした面接官5名との15分程度の個人面接でした。1回だけの短い面接で緊張していたため、落ち着いて自分の考え通りの受け答えが出来なかったことを記憶しています。面接では言う言葉をあらかじめ考えておくよりも、まず自分の考えに自信を持つておくことが大事だと感じました。

Q6.後輩へのメッセージをお願いします。

大学職員というと、大学の学務等の窓口において学生や教員に対応している人たちを思い浮かべられる方が多いかと思いますが、その何倍もの職員

が、見えないところで大学の運営を支えるための仕事を行っています。その一つ一つの仕事はある面では地味な仕事に見えるものもあります。しかし、そうした一つ一つの仕事が全体としてどういった意義を持っているのかを考えながら仕事をすれば、全てが自分自身の成長につながるものだと思います。また、現在は大学も法人化したことで、「今まで通り」のやり方を見直そうとしている機関が多いと思います。やる気次第では自分の意見で仕事の方法を変える等のやり甲斐を見出せるのではないかと思います。地道な努力を通じて自分自身を高めたいと思う方は、是非国立大学法人等職員採用試験を受けてみてください。

採用試験事務室ひとくちメモ ~仕事の概要まとめ~

総務・人事・企画渉外業務

経営企画を担い、組織をトータルコーディネートする業務。

財務関係業務

組織の運営に必要な財務上の計画や管理をする業務。

学生支援業務

学生を学業面・生活面から幅広くサポートする業務。

研究支援業務

学術研究の振興助成を推進する業務。

国際交流業務

海外との学術交流、留学生交流を推進する業務。

医療支援業務

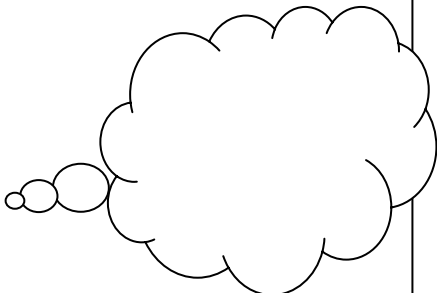
大学附属病院の医療や患者をサポートする業務。

学術情報サービス業務

教育・研究のための図書関係や学術情報資料、情報システムに携わる業務。

技術系業務

施設や設備の整備に係わる業務と教育・研究を技術面からサポートする業務。



一つ一つの仕事
がつながって
全体の仕事
になります。

所属課名：総務課契約係

名前：M.S.

性別：男

Q1.今の仕事について、内容や担当を教えてください。

主な業務として、業務に必要な物やサービスの購入の手続き等を担当しています。ボールペン等の事務用品の購入から、警備、清掃、人材派遣等サービスの提供を受ける長期の契約など多岐に渡っています。また購入した商品の代金支払いの手続き等も行います。国立大学法人等の運営は国民の税金によって支えられているところが大きいため、常に経済性と倫理性の保持を考慮して業務に取り組まなければなりません。また、業務上一般企業の営業の方等と取引をしますので、ビジネスマナー等も求められます。

Q2.なぜ国立大学法人等職員になろうと思いましたか。

私は国立大学を卒業したこともあり、学生のころより国立大学法人等の業務に関心を持っていました。在学中に学生生活で不便を感じたりしたことを業務に活かせればと考えたことがきっかけでした。また国立大学法人や独立行政法人は、公的な立場として教育や研究等の成果を社会に還元する場でもあり、法人化され今後さらなる社会貢献の場として重要な役割を担う職場としての魅力を感じ志望しました。

Q3.仕事をしていて良かったことを教えてください。

建物内の空きスペースに来客者の対応や簡単な打合せ用のスペースの設置を任せ苦勞したことがありました。その時はまだ図面の書き方もわからず、消防法も考慮し、また利用者が使いやすいようにスペースを確保しなければならず、金額も高額になるため失敗が許されないような仕事でした。苦勞も多かったですが、その分やりがいもあり、完成後に利用者の方から感謝の言葉をいただいた時は嬉しく思いました。誰もが満足できるような仕事をすれば、必然と感謝され、達成感もあり、今後のモチベーションアップにもつながるので良い経験となりました。

Q4.今後の仕事上の抱負を聞かせてください。

私は職員となり約2年半経ちましたが、まだこれから多くの業務に携わり、多くの人と接する機会があると思います。単に目の前の仕事をこなすだけでなく、長い目で組織の役に立つように考えると同時に、自らのスキルアップになるよう仕事に取り組みたいです。また人事交流等を利用して他の職場に行き、今の職場では経験できない業務に挑戦したいと思います。

Q5.第一次試験・第二次試験について教えてください。

一次試験の勉強は長期間に渡り非常に苦労された方も多いと思います。毎日少しずつの積み重ねがきっと力となります。自分の得意科目ばかりでなく、苦手科目を克服し、満遍なく知識を身につけることが大切です。私の場合は、予定のある日でも睡眠時間を減らして毎日範囲を決めて勉強しました。また、問題を多くこなして傾向をつかんだり、問題を解く時間配分も考えておくことも大切です。

二次試験の面接ではしっかりと面接官に自分の考えを伝えられることが大切です。自分がどうして国立大学法人等職員になりたいと思ったかを説得力を持って面接官に伝えられるようにしましょう。また、自分が今まで学んだこと、経験したことを整理しておくとも良いと思います。私は志望動機や経験等を箇条書きにして、しっかりと説明できるよう準備して面接に臨みました。面接は、面接官から面接者への一方的な質問の場ではありません。コミュニケーションですのでしっかりと受け答えできるように準備をして面接に臨んで下さい。

Q6.後輩へのメッセージをお願いします。

国立大学法人等職員の業務は様々な分野の業務があります。それぞれの業務が連携し、一つの法人が成り立っています。組織運営、総務、人事、財務会計、学生支援、情報関連等、業務の幅は非常に多岐に渡っています。それぞれの部署のそれぞれの業務の積み重ねが組織を運営しています。採用後、どこに配属されても前向きに向上心を持って業務に臨んで下さい。きっと良い経験となり、今後の良い糧となります。

所属課名：企画監査課

名前：T.Y.

性別：男

Q1.今の仕事について、内容や担当を教えてください。

主に組織全体の会計関係書類をチェックしています。関係法規の遵守という視点に立って、会計的な側面から業務が適正かつ効率的に運営されているのか、また、予算執行の正当性及び有効性をチェックするとともに、会計処理が適正に行われているのかをチェックしています。

その他にも、会計検査院など外部の機関からの照会に対して、連絡調整等の対応をしています。

Q2.なぜ国立大学法人等職員になろうと思いましたか。

高等教育機関は教育や研究を行うだけでなく、独自のノウハウや研究成果を社会に還元したり、企業と高等教育機関が連携して社会貢献活動を行う等、業務の幅や果たすべき役割が広がってきています。

そのような中で高等教育がどのように変革していくのか、その変革を実際に中で感じながら仕事ができることに魅力を感じたからです。

Q3.仕事をしていて良かったことを教えてください。

当機関は人事交流が盛んなため、様々な機関の方と出会えることです。様々な機関の方と情報交換することで仕事の進め方を参考にしたり、私自身、刺激にもなります。

Q4.今後の仕事上の抱負を聞かせてください。

会計関係書類をチェックする上で、実務の経験がない私にとっては業務の実状が分からないため、なぜ、なに、どうしてと思うことがとても多く、毎日が勉強です。実務や関係法規を理解し、より有効かつ適正な監査が行えるようになりたいです。そして、ゆくゆくは他の人から認められるような仕事がしたいと考えています。

Q5. 第一次試験・第二次試験について教えてください。

一次試験については、出題数の多い数的処理だけ毎日解くようにしました。暗記ものは移動時間を利用して勉強していました。満点を採るつもりはなかったのですが、苦手分野については全く勉強していません。

二次試験については、合同説明会后約一週間の間に多くの機関が面接を集中して実施しており、過密スケジュールになる可能性があるので併願される方は面接対策を早めにしておいた方が良いでしょう。実際の面接では履歴書等に基づく質問から意表をつく質問まで機関によって様々でした。例えば、「サッカーワールドカップ決勝はどちらが勝つと思うか」や「なぜ大学に入学したのか」等です。個人的な意見ですが、面接官は知識以上に人間性を見ていると思います。結局、面接は相性です。

Q6. 後輩へのメッセージをお願いします。

高等教育を取り巻く環境が変化している中で、高等教育機関に期待される役割は重要なものになっており、そこで働く職員にもその役割を果たすための成長が求められています。つまり、社会に貢献しているというやりがいを感じながら自分を成長させていくことができるということです。また、多岐に渡る業務を経験することで自分の新しい可能性を発見することもできると思います。

この試験は、国立大学法人の職員だけでなく、大学共同利用機関法人や独立行政法人の職員も募集していますので、自分の能力を発揮できる機関が必ずあると思います。情報収集をして、自分が興味や関心を持った機関を探してみてください。



所属課名：教育支援課

名前：M.S.

性別：男

Q1.今の仕事について、内容や担当を教えてください。

主な業務は学生（学部生・大学院生）の履修に関すること全般についての窓口対応と事務作業です。

学生の履修に関する業務とは、具体的には履修登録や単位修得状況の確認、履修の手引や授業科目一覧の作成等があります。私の勤務する大学は教員免許が取得できる大学のため、卒業要件や修了要件だけでなく、免許要件も考慮する必要があり、そこが大変です。他には各種証明書の作成、講義の準備、電話対応、教務委員会の準備等があります。基本的には学則や規程、細則に基づいて業務を行っています。

仕事上関わる相手としては、主に学生と教員です。窓口対応や電話対応の際は、迅速に対応しなければいけないので、緊張感があります。

一番忙しい時期は1～5月ですが、他の時期も平均的に忙しいと言えます。しかし、土日は基本的に休みですし、有休等もきちんと取れますので、趣味等に使える時間も多と思います。

Q2.なぜ国立大学法人等職員になろうと思いましたか。

個人的に、教育は人材育成の中心となる重要なものという認識を持っています。国立大学法人の職員は教育のサポートや全体の運営ができる仕事なので、誇りを持って仕事ができると考え、この仕事を選びました。

Q3.仕事をしていて良かったことを教えてください。

はじめは指示された仕事をこなす日々でしたが、徐々に仕事を覚えていき、自分で一つの仕事を終わらせたときに、達成感とともに自分も大学に貢献できているような気がして、この仕事をしていて良かったと改めて実感しました。

Q4.今後の仕事上の抱負を聞かせてください。

人から頼られる存在を目指しています。「 さんに聞けば、大丈夫」と言われるような存在になりたいです。そのためには、様々な事態に対応できる力が必要だと思います。様々な事態に対応するには、様々な経験をする必要があります。受け身で仕事をしていては決して多くの経験はできないので、積極的な姿勢で仕事をしていきたいです。

10年後、20年後の自分の姿をイメージして、現在の仕事に取り組んでいこうと思います。

Q5.第一次試験・第二次試験について教えてください。

第一次試験の対策は、試験のおよそ1年前から始めました。参考書を購入し、1日にこなす量を設定し、それを毎日やりました。1日1時間くらいの勉強をとにかく毎日やり続けました。本番ではわからない問題はとばし、わかる問題を確実に解きました。

第二次試験の対策は、自己PRをいかにできるかを考えました。いかに自分が大学で働きたいかをアピールするため、試験前の説明会は全て参加しました。また、面接を受ける際に提出する履歴書等は、働きたい意欲が伝わるように書きました。

私が受験した大学の第二次試験は個人面接でした。面接に際しては、自分は絶対に採用されるのだという強い気持ちで臨みました。何を聞かれたかあまり覚えていませんが、地域貢献と大学といったテーマや他機関との併願状況に関する質問を受けた記憶があります。

Q6.後輩へのメッセージをお願いします。

国立大学の法人化の影響は大きく、1人1人の仕事量は増え、単純な作業だけをこなしていれば良いという状況ではありません。生き残っていくためには、常に変化が必要となります。だからこそ若い人の発想力や行動力が必要なのです。

元気の良さや仕事への情熱があれば、必ず必要な人材となれると思います。出会いもたくさんあります。是非国立大学法人で働きましょう。

所属課名：学務課

名前：S.G.

性別：男

Q1. 今の仕事について、内容や担当を教えてください。

私の所属する学務課教務係の主な業務は、学籍管理、履修管理、学位授与に関わる事務等です。学生が大学に籍を持ってから、出ていくまでの、教育全般に関する業務、と定義できるかと思います。また、現在、学籍管理や履修管理を行う学務システムを新しく再構築する、という計画があり、新しい学務システムはどのような機能を持つべきか、また新しい学務システムを導入することで、業務はどのように効率化するのか、という要件をまとめる作業を行っております。学生の教育に関わる業務を担当するゆえ、本系の業務は、およそ学生の大学でのライフサイクルに合わせて行われます。学生と直接やりとりを行うことも少なくありませんが、教員、学内の他の部署、遠隔地キャンパスの事務担当者や、他大学職員等、様々な人々と関わりながら、業務を進めております。

Q2. なぜ国立大学法人職員になろうと思いましたか。

以前は、IT関係の民間企業で働いておりました。社会人としての基礎力や仕事のおもしろさなど、学ぶところは多くありましたが、自分が社会で働く意味を考えた末、自分の価値観に合う仕事に就きたいと思うようになり、国立大学法人を選択しました。大学職員の役割は、大学の企画運営に事務職員という立場で参加し、より良い教育と研究の環境作りを行うことにあるかと思いますが、教育分野での仕事に参画しながら、その役割に尽力することに、大きなやりがいを感じています。

Q3. 仕事をしていて良かったことを教えてください。

前職での知識を活かして、今の業務に多少なりとも貢献できていることを、とてもうれしく、やりがいに感じます。学務システムの更改に向けた業務要件の整理を行う上で、システムに関する基本的な知識が、非常に役

立っています。本業務にアサイン（配属）していただいた上司に、大変感謝しております。また、いつの日か自分が関わった仕事が、大学の教育環境の良きインフラとなり、質の高い教育、ひいては社会に対する知の還元という大きなサイクルの、小さな一端となりうれば、と思います。

Q4 . 今後の仕事上の抱負を聞かせてください。

どの仕事もやりがいのあるものだと思いますので、ひとつに限定することはできません。抽象的ですが、大学の提供するサービスの向上に、役に立つ職員でありたいと思います。短期的な小さな改善は、少ない知識で実現することも可能とは思いますが、長期的な視点で、本当の意味での業務やサービスの改善は、現状に対する深い理解と、幅広い知識が必要不可欠だと考えております。まずは、何事に対しても理解しようとする姿勢、そしてなによりも仕事に対する高いモチベーションを、いつまでも持ち続けていたいと思います。

Q5 . 第一次試験・第二次試験について教えてください。

第一次試験の準備は、問題集を買って練習した程度です。第二次試験は、集団面接と個別面接でしたが、準備としては、自分がなぜ大学で働きたいのかを改めて言葉にする、ということをしました。就職活動全般にいえることとは思いますが、志望動機を言語化できるかどうか、面接試験の最重要ポイントかと思えます。

Q6 . 後輩へのメッセージをお願いします。

大学の企画運営の実務を担いながら、社会に対して教育・研究という分野でコミットして（かかわって）いける、というのは、他の仕事にはないおもしろさがあると思います。是非一緒に、そのおもしろさを分かち合えれば、と思います。

所属課名：学生支援課学生生活係

名前：K.S.

性別：男

Q1.今の仕事について、内容や担当を教えてください。

奨学金や授業料の免除等、主に学生の経済支援をする部署に所属しています。私はその中でも主に奨学金を担当しています。奨学金の募集や採用、年度ごとの継続の手続きや返還の手続き等を行っています。また、その都度学生向けに説明会を開催しています。

現在、本学学生の約3分の1の学生が何らかの奨学金の貸与を受けています。その学生やこれから奨学金を申請しようと考えている学生が奨学金のことで困ることがないように、説明会や窓口業務を通じてわかりやすい説明を心掛けています。

また、様々な学生の相談(経済的な相談に限らず)に乗ったりするなど、日々変化のある職場です。

Q2.なぜ国立大学法人等職員になろうと思いましたか。

学生時代に単位の履修のことで教務担当の職員の方に親身になって相談にのって頂いたことが一番大きなきっかけでした。その方のおかげで無事に単位を取り、卒業ができたと思っています。

もともと教育関係の職業に興味があり、そういった意味でも国立大学法人等職員は魅力的な職業でした。

Q3.仕事をしていて良かったことを教えてください。

一番良かったことは月並みですが、学生に「ありがとうございます」と言われることです。所属している部署の関係もあり、学生からの相談も色々なものがありますが、問題を解決できたときの学生の安心した顔を見ると充実感を覚えます。

様々な学生が毎日訪れる窓口にいるので、毎日毎日本当に色々な変化があって、とても楽しいです。その反面、学生が夏休みや春休みに入っ

まうと、訪れる学生も極端に少なくなってしまうので、少し寂しくなってしまう。(笑)

Q4.今後の仕事上の抱負を聞かせてください。

今までは上司に言われたことややらなくてはいけないことを行うことで精一杯でしたが、今の部署に配属されて3年目を迎えるので、これからは、より学生のためになるようなことを自ら考えて実行に移していきたいと考えています。そのために、これまで以上に学生からの話を聞く機会を増やしていくことと、学生から信頼されるような姿勢をもつことを心掛けていきたいです。

また、学生の様々な相談や質問に答えられるよう、大学や学生生活に関わる幅広い知識やスキルを身に付けていきたいと思っています。

Q5.第一次試験・第二次試験について教えてください。

第一次試験に関しては、市販の問題集を使用して勉強していました。公務員を目指している大学の同級生と一緒に自宅や図書館で勉強をしていました。それぞれに得意・不得意分野があるので、お互いに教え合うことができ、いい意味で刺激になったと思います。

第二次試験では、面接官3人・受験生3人の集団面接でした。面接で聞かれたことは、「志望動機」、「本学を選んだ理由」、「採用後働いてみたい部署」のほかに「最近気になったニュース」や「外国語ができるかどうか」等でした。

第二次試験当日は大変緊張をしていて、自分がどのようなことを答えたか余り覚えていません。ただ、予想される質問に対する回答は事前にノートに書きとめていました。その際は、極力自分の言葉で書くように心掛けていました。

Q6.後輩へのメッセージをお願いします。

国立大学法人等職員には、大学だけではなく様々な関係機関もあります。また、大学の中でも、私のように学生と直接接する部署を始め、様々な部

署があります。ご自身が思い描くような部署もあれば、そうでない部署もあるかと思います。ただ裏を返せば、それだけ自分を磨くことができる場所が揃っているということでもあると思います。ぜひ皆さんが活躍できる場所を探してみてください。

最後になりましたが、皆さんと一緒に仕事ができることを楽しみにしています。

採用試験事務室ひとくちメモ ~ 試験内容確認 ~



【第一次試験】

教養試験

120分・40題全問必須回答。多枝選択式による筆記試験。

[社会、人文及び自然に関する一般知識ならびに文章理解、判断推理、数的推理及び資料解釈に関する一般知能]

専門試験

120分・30題全問必須回答。多枝選択式による筆記試験。

[試験区分に応じた必要な専門知識、技術等の能力]

【第二次試験】

- ・各機関が個別に実施。
- ・第一次試験合格後、複数の機関の受験が可能。

所属課名： 産学連携課外部資金係

名前： A.Y.

性別： 男

Q1.今の仕事について、内容や担当を教えてください。

私の仕事は、教員と企業の方が共同で研究を行ったり、公的機関や企業の方が研究の委託を行う際の事務手続き、国や独立行政法人等が研究の公募を行う補助金の事務手続きをしています。

共同で行う研究や委託での研究を行う際の事務手続きでは、契約書の作成や研究終了後の経理報告書の作成をしています。契約書の作成では、研究内容に関することから特許権・意匠権等の知的財産権まで、さまざまな事柄を取り扱います。

補助金では細かく規則が決められており、この規則に沿って、申込書提出手続きや申し込みが採択された場合の手続き、研究中でのさまざまな変更手続き等を行います。

Q2.なぜ国立大学法人等職員になろうと思いましたか。

私が、大学職員になろうと考えたのは大学での学生生活における経験があるからです。大学は、勉強面やプライベート共に充実した日々を過ごし、人間として大きく成長できた場所です。そんな中で友人に国立大学法人等職員試験があることを教えてもらい、社会人として再び大学とかかわる大学職員になろうと考えました。

Q3.仕事をしていて良かったことを教えてください。

仕事をしていて良かったと思うことは、たくさんの知識や技術が身についていくことだと思います。現在の仕事上、法律だけでなく経理報告書等のお金を扱う仕事も行っているため、たくさんの知識を得ることが出来ます。私生活に密着していることとしては、パソコンの技術が格段に上がったことです。

ただ、仕事ですので、楽しいことばかりでなく辛いことやきついことも

あります。特に職員となって最初の時期は、仕事を覚えることに精一杯で、余裕がなく、失敗することも多々あります。この失敗を一個一個着実に成功に変えていくうちに、仕事を完成させる達成感や、自分に自信が持てるようになります。

Q4.今後の仕事上の抱負を聞かせてください。

私は、この仕事を始めて1年と数ヶ月経ちました。ようやく仕事にも慣れはじめ、ある程度考えて仕事をこなせるようになってきました。今後は、さらに担当する仕事の質を向上させ、今以上に信頼して任せてもらえるようになるとともに、まだ、担当したことがないものでも積極的にチャレンジしていきたいです。

Q5.第一次試験・第二次試験について教えてください。

第一試験については、大学職員試験の過去問というものは特になかった（現在では、国立大学法人等職員採用試験の対策本が出版されているようです。）ので、公務員試験の過去問を試験直前期までひたすら何回も繰り返して解き、予備校が主催する模試になるべく参加しました。

第二次試験は、個人面接でした。市販されている面接対策本で、ということがよく聞かれるのかを調べ、自分なりの回答を考え、これを友達に聞いてもらっていました。友達に聞いてもらうのは恥ずかしいと思うことがあるかもしれませんが、この方法は第三者に自分の考えがどう伝わっているのかわかるのでとても有効だと思います。また、面接官からの質問に対する回答も、自分の素直な気持ちを答えるように心がけました。

Q6.後輩へのメッセージをお願いします。

国立大学職員は、皆さんがイメージしているだろう学生の方への対応だけでなく、財務関係の仕事や研究支援業務等、たくさんの仕事があり、自分の希望しているところでない部署に配属されることもあります。また、楽しいことだけでなく、きついことやつらいことも経験すると思いますので、大学職員を希望するのであれば、強い志をもって受験することをお薦

めします。

受験勉強は大変ですが、努力した分が結果として返ってきますので、最後まであきらめず頑張ってください。

採用試験事務室ひとくちメモ ~スケジュール確認~

【合同説明会】* 関東甲信越地区の場合
7/5(日)午後、東京大学本郷キャンパスにて。

試験区分	受付期間	第一次試験			第二次試験		
		試験日	種目	合格発表	試験日	種目	合格発表
事務	4/1(水) ~ 4/10(金) 消印有効	5/17(日)	教養試験	6/30(火)	各機関による	面接等	各機関による
図書					7/5(日)午前	専門試験	
					各機関による	面接等	
電気 機械 土木 建築 化学			各機関による		面接等 (専門性の 考査 含む)		
物理 電子・情報 資源工学 農学 林学 生物・生命科学			各機関による		面接等 (専門性の 考査 含む)		

所属課名：研究協力課

名前：R.F.

性別：女

Q1.今の仕事について、内容や担当を教えてください。

一言でいうと課名のとおりに「研究協力」であり、様々な公募や助成金の情報をまとめて研究者に対して発信し、その申請・応募の手続き（書類のとりまとめ等）を行なうという業務がメインです。また、その他にも研究者や学内共同利用研究施設に対する学内予算を使った支援や、研究にかかわる倫理・安全についての管理業務、そしてこれらにかかわる委員会の取りまとめ等、多岐にわたります。

年々財政状況が厳しくなっていく国立大学にとって、研究者が優れた研究を行なうことによって獲得する外部資金の重要性は増えています。そのために研究環境を整える専門の部署と言えるでしょう。

教員は教育・研究を直接行ない、またその運営にかかわる基本的な構想を練り、事務職員は主にその支援や実動を担う、というのが組織の基本だと思いますが、実質的に事務職員が考えて作りあげていく部分は多いです。特に私の配属課はまだできて数年で確立していない部分もあり、考える部分が多いです。あれこれ教員に相談しつつ細部を考えて、ともに業務を遂行していく・・・というのが大体の雰囲気です。

ちなみに、学生とのかかわりはほとんどなく、どちらかという教員とのかかわりが多いです。

Q2.なぜ国立大学法人等職員になろうと思いましたか。

一言でいうと母校愛です。在学時から「もっとこうなったらいいな」という思いを色々抱いており、それを自分でやれたら・・・というのが志望動機です。

それと、公務員と民間の中間的な存在であり、両方の良い性質を兼ね備えた魅力があると思いました。

Q3.仕事をしていて良かったことを教えてください。

億単位の大型の公募に研究者が申請する際に、学長はじめ理事等が集まり、ブラッシュアップをする会議が行なわれるのですが、学内のトップクラスの教員が意見を戦わせる場面は本当に面白いです。日本あるいは世界トップレベルの独創的な研究内容や、様々な視点・立場の意見を聞けるといのは、大学の醍醐味だと思います。

また、そのような公募の採択が決まった時は、素晴らしい研究を行なっている教員や、次代を担う研究者を支えるためになる仕事をやっているのだという実感が湧いて、とても嬉しく思う瞬間です。

Q4.今後の仕事上の抱負を聞かせてください。

今は自分の担当仕事だけで精一杯ですが、大学を俯瞰できるようになるため、様々な業務のことを知りたいと思っています。また学内の立場だけでなく、社会全体・様々な人たちにとって国立大学とはどういった存在なのかということ絶えず意識していきたいという思いもあります。そのため、本学教職員や学生だけにとどまらず、公私にわたって色々な世界の人たちとかかわっていきたくと思っています。

Q5.第一次試験・第二次試験について教えてください。

公務員試験予備校に通って勉強をしていました。数的処理が苦手すぎたため、2月下旬の時点でその講師には「(倍率も高いので)合格するのは国家種よりも難しいよ」と渋い顔をされてしまいましたが、とにかく毎日諦めずに勉強を続けました。4月に模試を受けた時点で6割にも満たずショックを受け、その後は問題の傾向・今までの模試での自分のでき具合をエクセルにまとめてつきあわせ、どの科目にどのくらい力をいれて、どんな方法で勉強するか綿密に戦略を練って臨みました。本番では7割程度解けていたと思います。

第二次試験については6月中旬から対策を始め、下旬に予備校の模擬面接を何回か受けました。また、現役公務員の先輩方にアドバイスを受けながら面接シートを作成しました。7月上旬の合同説明会に参加し興味のある

る法人の面接予約をとりました。整理券を配布したり、説明会終盤になると予約受付を締め切ってしまうところもあるので注意が必要です。

第一志望の面接は、前年度は「二次面接まで」と事前に調べたのですが、自分が受けた時には三次まででした。採用は各法人が工夫を重ねている段階ですので、決まった形というのではないと思った方が良いでしょう。

また、情報収集については、OG訪問をした際に得たものは大きかったです。面接でもアピールできますし、社内リクレーター制度のようなものもあれば、採用されるチャンスもぐっと増えると思います。

Q6.後輩へのメッセージをお願いします。

国立大学法人が抱える課題は色々あり、教員は多忙な中で研究・教育・運営等の様々な業務をこなしています。そのような状況において、今後事務職員に求められる役割はサポート業務を超えたものとなっていくと思います。私自身、現在の実務としてはルーチンワークや雑務・庶務が多く占めますが、その中でも自律的に考え、行動することを求められているなど日々感じます。

国立大学法人の置かれた状況が必ずしも順風満帆といったものではないことは既にご承知かと思いますが、だからこそ、問題意識と向上心を持った皆様と一緒に大学をより価値あるものに高めたいと思っています。

試験勉強は辛いと思いますが、諦めないで最後まで頑張ってください。楽しみにお待ちしております。



所属課名：国際課

名前：S.B.

性別：男

Q1.今の仕事について、内容や担当を教えてください。

大学間交流協定締結（新規・更新）

- 交流を結ぶ海外の大学の窓口と協定内容の交渉を行います。

外国人研究者受入

- 来日に伴う諸手続（在留資格認定証明書の交付申請、仲介機関との事務書類のやり取り等）を行います。

外国人来訪者対応

- 主に交流協定校からのお客様のアテンド（対応）を担当します。

国際協力

- JICA（国際協力機構）のプロジェクト受託に伴う事務手続きを行います。

その他、課内の庶務業務を行っています。

Q2.なぜ国立大学法人等職員になろうと思いましたか。

まず、何よりも自分が大学生として生活してきた中で大学という空間が好きであり、大学というアカデミックかつ和やかな他業種では味わうことのできない独特の空気の中で働きたいと思ったからです。

そして、まず思い浮かべたのが学生と関わる業務で、学生がより快適で充実した学生生活を送るための一翼を担うことができればと考えました。

また、実際に採用説明会に参加してみて、国際交流業務があることを知りました。学生の頃から海外関係の仕事に就きたかったこともあり、大学職員は自分にぴったりの仕事であると確信しました。

Q3.仕事をしていて良かったことを教えてください。

交渉が難航した大学交流協定の締結や更新を無事終えることができた時の達成感は、何物にも代え難いものがあります。海外とのやりとりはず

べて英語で、その上、先方はネイティブの方や専門職の方がほとんどです。協定書の内容は、時に専門用語を多用する契約書のような難解なものもあります。先方から細かい文言についての指摘も多々あり、その調整には多大な労力を要します。ですから、手続きを終えた際の喜びもひときわ大きいものとなります。

また、外国人研究者の受け入れに関する手続きへの尽力に対して、受入教員や外国人研究者の方から、「ありがとう」と言っていたただけた時にも自然と頬が緩みます。

Q4.今後の仕事上の抱負を聞かせてください。

まずは、語学力。英語プラス 1、2 カ国語はマスターできればと思っています。

そして、同時に、国際交流の業務内容にも精通し、現在は本学にはないのですが、「専門職」というような制度ができた際には、国際交流のスペシャリストとしてのキャリアを歩んでいくことができればと思います。とにかく、より多くの人のためになるような「いい仕事」ができるよう努めていきたいです。

Q5.第一次試験・第二次試験について教えてください。

一次試験対策として、私はどの試験科目とも関わりのない学部出身のため、試験の半年程前から予備校に通いました。公務員試験とも併願していたため、教養・専門ともに勉強しました。とにかくまずは、暗記。それから、アウトプット。「学問に王道なし」です。点数が思うように伸びなくても、最後まであきらめないでください。最後の 1、2 ヶ月の追い込みで伸びます。

面接対策は一にも二にも、「場慣れ」です。まずは、自己分析をしっかり行い自己PRと志望動機を固め、家族や友人や予備校等あらゆる手段を使い、模擬面接を繰り返し、慣れるようにしてください。常にロジカル・シンキングを心がけ、「明るく、ハキハキ」と熱い思いが伝えられるよう頑張ってください。

また、グループ面接やグループディスカッションを行う大学・機関もありますので、十分に対策を練っておいた方がよいかと思います。これらに関しては、熱意だけでなく、「バランス感覚」重視がポイントとなります。

Q6.後輩へのメッセージをお願いします。

受験生活は、時に辛く孤独です。

しかし、それを乗り越えれば、非常にやりがいのある仕事が皆さんを待っています。

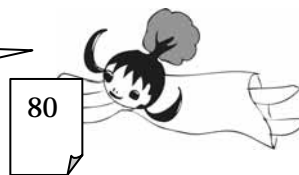
国立大学法人化以降、大学を取り巻く環境は決して易しいものではありません。しかし、それは同時に、各大学独自の取り組みを強化し、変革を行っていくチャンスでもあります。そして、いずれその中核となりリードしていくのは我々若い世代です。

皆さんと共に「いい仕事」ができる日を楽しみにしています。

採用試験事務室ひとくちメモ ~ 受験申込みの注意点 ~

不備がないか、出す前に
チェックしてね

80



80円切手1枚(受験票送付料)を
受験申込書の切手貼付欄に必ず貼って下さい。

郵便局の窓口で**簡易書留郵便扱い**にして、早めに(受付期間:4月1日~
4月10日【消印有効】)申し込んでください。

申込書郵送先

〒113-8799

日本郵便 本郷支店留 関東甲信越地区国立大学法人等
職員採用試験実施委員会 宛

所属課名：学生支援課留学生担当

名前：K.I.

性別：女

Q1.今の仕事について、内容や担当を教えてください。

主な仕事は交換留学（外国人学生の受入れ及び日本人学生の派遣）の事務手続きです。

受入れは年に2回、4月と10月に行っていますが、事務手続きはその半年前から始まります。4月受入れなら前年の10月、10月受入れならその年の4月に、学生交流協定を結んでいる海外の大学に交換留学生の募集通知を出します。その後、提出された申請書類に不備がないかをチェックし、海外とメールをやり取りしながら手続きを進めていきます。申請者の受入れが認められたら、彼らの在留資格認定証明書を申請し、ようやく新しい交換留学生の来日となりますが、その時にはもう次の交換留学生の募集の準備を始めています。

一方日本人学生の派遣手続きは、毎年11月に開催される海外留学説明会から始まります。ここで次年度の交換留学希望者を募り、4～7月に海外の協定校に留学申請を行います。学生が出発する時期は留学先の大学によって異なりますが、大体8～2月にかけてです。ですから、こちらも1年間まったく気が抜けません。

その他には外国人留学生に関する諸調査、留学生向けの研修旅行の引率等も担当しています。もちろん日々の窓口での学生対応もとても大切な仕事です。

Q2.なぜ国立大学法人等職員になろうと思いましたか。

ちょうど私が大学に進学した年に国立大学が法人化し、授業料の増額、教育内容の見直し等、早々に法人化がもたらした変化に直面しました。それでも私はとても有意義な学生時代を送ることができましたが、今後ますます大学の置かれている状況は変わっていくであろうと考え、学生がより良い環境で勉学に励めるようサポートしたいと思い、大学職員を志すよう

になりました。

Q3.仕事をしていて良かったことを教えてください。

来日直後の留学生、特に交換留学生は最初のうち日本になじめず苦労することもあるようですが、彼らが次第に日本に溶け込んでいく様子を見ると、この仕事をしていて良かったと感じます。入学したばかりの頃はまったく日本語が話せず自分では何もできなかった学生が、ある日一人で窓口へやって来て、たどたどしいながらも日本語で用件を伝えてきたときは嬉しくて仕方がありませんでした。留学生が積極的にサークル活動やイベントに参加しているのを見るのも嬉しいですね。そうした問い合わせで窓口がパンク寸前、急ぎのはずのデスクワークが完全中断ということも時にはありますが、それで彼らの日本での留学生活が充実すると思えば頑張れます。

Q4.今後の仕事上の抱負を聞かせてください。

最も緊急かつ具体的なものとしては、留学の相談に来る日本人学生を不安にさせないということでしょうか。私は海外留学の経験がないので、留学を希望する学生の悩みや疑問に実体験をもって答えてあげることができません。すべてにきちんとした回答をするのは難しいですが、まずは留学についての知識を増やすべく勉強中です。

いずれは別の部署に異動することになりますが、それまでは学生と直接に接する今の職場で、学生が求めている事に迅速に応えられる職員を目指していきます。

Q5.第一次試験・第二次試験について教えてください。

第一次試験は勉強すれば必ず突破できます。私は大学3年生の夏頃から公務員試験の過去問題集を使って勉強を始めました。一般知識は一日にあまり詰め込みすぎないように、一般知能は1問でもいいから毎日解くようにし、取り組んだ問題は翌日から3日間は続けて復習するという勉強法をとっていました。

第二次試験は主に面接ですが、その形態は機関によって異なります。最初に集団討論あるいは集団面接で人数を絞り、最終試験として個別面接を行うというパターンが多いかもしれません。ある程度までは提出した履歴書に沿った質問をされますが、一つの質問を深く掘り下げられることもよくあるため、履歴書を書く段階からとても気を遣いました。今勤務している大学に採用されるまでは、こうした突っ込んだ質問に苦しみ、何度も失敗したものです。今の勤務先の面接の際には、まず大学のホームページや資料を見て、ここがどのようなカラーを持っているのか 今後はどのような大学を目指しているのか そのために必要とされるのはどのような人材か 自分はそこで役に立てるか、役に立てるとしたらどのようにしてか という順序で自己PRを考えていきました。また、面接本番ではとにかく面接官の質問に集中し、問われていることに対して的を射た答えをするよう心がけました。

Q6.後輩へのメッセージをお願いします。

第一次試験のための勉強が苦痛になるときもあるでしょうが、この試験をクリアすれば、多くの魅力的な機関の採用試験に臨む資格が得られますので頑張ってください。第二次試験に臨むにあたっては、できるだけ視野を広く持つことをお奨めします。せっかくたくさんの選択肢があるのですから、その中から自分に最もよく合った職場を見つけられるよう積極的に動きましょう。そうして選んだ職場は最高の職場だと思います。



所属課名：歯学部業務課

名前：T.K.

性別：男

Q1.今の仕事について、内容や担当を教えてください。

大学病院に入院している患者さんの入院費の計算が主な仕事です。入院費は高額になるため、ミスの無いように細心の注意を払って会計を出すように心掛けています。そのため、病棟へ行きドクターにどのような手術をしたのか確認したり、看護師、薬剤師の方々と連絡を取り合うようにしています。

また他にも、入院する患者さんの受付や、病院のロビーの見回り、病院のパンフレット等の発注、そして、患者さんへの入院費の請求などなど、業務は多岐にわたります。

Q2.なぜ国立大学法人等職員になろうと思いましたか。

はじめは、公務員試験の中のひとつとして受けてみようかなといった感じでした。また私のなかで大学職員というと、学生の対応をして、あとは黙々と事務作業しているイメージがありました。

しかし、パンフレットを読んだり、説明会に参加してみることで、様々な種類の業務があることを知り、どれもやりがいのある仕事のように感じ、ぜひ国立大学法人等職員になって大学運営に携わってみたいと考えるようになりました。

Q3.仕事をしていて良かったことを教えてください。

入院の受付時に患者さんに「ありがとう」と言われた時など、ちょっとしたことで『良かったな～、またがんばろう』という気持ちになります。

また、職場が病院ということで、保険の仕組みや病気について詳しくなり、普段の生活でも役に立つ知識を身につけることができることは良かったと思います。

Q4.今後の仕事上の抱負を聞かせてください。

歯科治療、医療全般に関する専門的な知識をもっと身につけ、ドクターをはじめ、看護師、薬剤師の方々とよりスムーズにやり取りすることができるようになりたいと考えています。

そして、現在自分のしている仕事が、他の部署とどのように関係して、どのように大学病院の運営につながっているのかを学んでいきたいと考えています。

Q5.第一次試験・第二次試験について教えてください。

第一次試験は、数的処理で差が出てくると思います。私は、ひたすら数的処理の問題集を解くことで、様々な種類の問題に対処できるようになり、時間との勝負の本番でも、冷静に問題を解くことが出来ました。

第二次試験は、面接がメインになると思いますが、自分の今までの経験や、性格等から、国立大学法人等職員になってどのようにそれらが活かせるのか、大学にどのように貢献できるのかを考えて臨むと良いと思います。

Q6.後輩へのメッセージをお願いします。

大学職員というと、学生と接するものだという印象が強いかもしれませんが、もちろん窓口で学生の対応をする部署もあります。しかし、学生と直接関わらない部署も多くあり、仕事内容も様々です。私も、想像していなかった大学病院での仕事にはじめは戸惑いましたが、実際に働いてみると、とても責任のある仕事でやりがいを感じています。

また、先輩方も親切で、仕事場の雰囲気もよく、毎日楽しく仕事をしています。

みなさんとも、国立大学法人等職員として共に働ける日を楽しみにしています。

所属課名：情報図書館課

名前：H.M.

性別：女

Q1.今の仕事について、内容や担当を教えてください。

私は現在、図書館の図書情報係で和書の目録作成をメインに、その他、受入、装備を担当しています。図書館というと貸出・返却のような、カウンターでの仕事をぱっと思い浮かべることが多いかも知れませんが、そこで、図書館全体の中で図書情報係が担当している業務について説明すると、図書情報係は、購入する図書の選定（選書）、受入、目録、装備を担当している係です。つまり、図書館の本が図書館に入ってから棚に並ぶまでの作業を担当している係ということになります。

その中で私が担当している業務の一つが目録です。いまやインターネットで図書館の本を検索できるのが当たり前となりつつありますが、その検索結果として表示される“本のデータ＝書誌”を作成するのが目録担当者の仕事です。また、目録に加えて、受入という選定された図書の発注から支払までを行う業務も担当しています。取引書店への応対等、図書館外の業者に対面することが比較的多い担当です。

Q2.なぜ国立大学法人等職員になろうと思いましたか。

人と情報をつなぐ仕事に就きたいと思いました。

特に、自らの大学での経験を活かして学術情報と人をつなぐ仕事に就きたいと考えて、国立大学法人職員（事務系図書）を志望しました。図書館はただ図書が置かれているというだけでは、十全にその機能を果たしているとは言えません。図書、雑誌、新聞そしてインターネットも含めたあらゆる情報を、利用者の目前でリンクさせることによって、図書館の機能が初めて活かされます。私はこのような、“情報をリンクさせる役割”を果たし、大学で自らの一歩を踏み出す若い学生、そして研究者の研究活動に自らを役立てたいと考えました。

Q3.仕事をしていて良かったことを教えてください。

受入、目録、装備と自分が携わってきた本が利用されるのを見ると、仕事をしていて良かったと感じます。図書館カウンターに座るわずかな時間、貸出返却された資料の小山に自分が整理した図書を見つけると、自分の作業が利用者の手元に届いた実感が湧いてきます。貸出第一号の人が、図書に折って挟まれた紐のしおり（スピン）を紙の間から引き出して、まだ新しい紙をぱらぱらと繰る瞬間を楽しみに、毎日作業をしています。



Q4.今後の仕事上の抱負を聞かせてください。

現在の担当は利用者と直接対面することは少ないのですが、資料を通して利用者サービスを行う業務だと考えています。そこで、利用者のニーズを反映させつつもバランス良い選書に携われるような学術知識を養うと同時に、資料が利用者に少しでも早く届くように受入、目録、装備の知識・技術を向上させていくつもりです。また利用者のニーズについて敏感に知りたいので、リクエストや質問等、利用者と図書館間の対話の機会をもっと作っていきたいと考えています。

目録は、目録自体の専門知識を吸収することはもちろん、学術的・言語的知識が、利用者・図書の数だけ必要です。そのためには、長期スパンで飽くことなく新たな知識へと向かう積極的な姿勢を保ち、その時点のベストを利用者に、そして図書へとぶつけていきたいと思えます。

Q5.第一次試験・第二次試験について教えてください。

国立大学法人の受験を決めたのが3月だったため、一次試験の準備をする期間があまりありませんでした。受験勉強の効率化を図るため、予備校で試験範囲の全体像を捉えると共に、数的処理や社会科学等の訓練が必要な科目については、一日のノルマを決めて学習しました。一次試験は試験範囲が広いので、いかに短期間で全体像を把握し、自分の苦手とする分野を集中的に克服するかが大切だと思えます。

二次試験は、図書系を志望したので、面接に加えて図書系専門試験を受験しました。図書系専門試験は、試験問題がオンラインで公開されているので、過去の試験問題をまず解き、苦手分野を明確にした上で、図書館情報学の問題集や用語集等も試験勉強に活用しました。

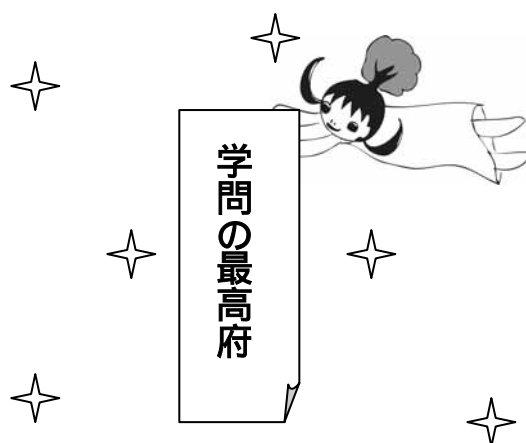
面接では、事前に説明会に積極的に参加することで、大学や学生の雰囲気をつかむ努力をしました。各大学がそれぞれのホームページ上に試験情報を公表している場合が多いので、その情報を漏らさず、さまざまな機会を活かしてまずは大学の情報を知ることが大切だと思います。

Q6.後輩へのメッセージをお願いします。

学生としては良く知っているけれど、職場としては未知の世界であろう大学・研究機関の採用試験を受験しようとしている皆さんに、今回の「若手職員の声」が、国立大学法人という職場の雰囲気を少しでも伝えられていれば良いなと思います。

大学・研究機関という学問の最高府（古い言い方ですが・・・）で、将来の研究者・職業人、そして現在の研究者をサポートしていく仕事は、積極的に参加すればするほど、やりがいを覚えることができる仕事です。

皆さんと、職場でお会いできることを楽しみにしています。



所属課名：(施設・資産系)本部プロジェクトグループ(施設系職員 建築)

名前：N.E.

性別：男

Q1.今の仕事について、内容や担当を教えてください。

技術系の中でも、特に「施設系」と呼ばれる私たちは、施設・設備（インフラを含む）の企画、計画、設計、積算、施工監理、保全等を行っており、大学内にある施設の始めから終わりまで携わっています。

私が担当している業務は「企画、計画」の中でも、良好なキャンパス環境整備のためのマスタープランの策定や、施設整備費補助金の概算要求等の事務手続きを行っています。

大学のキャンパスは、無秩序に整備されているのではなく、建物の配置計画や整備計画、緑化計画、交通計画等を定めた大学独自のマスタープランを策定し、それに基づき整備を行っています。また、整備を行っていくためには多額の財源が必要となります。法人化後は、「新たな整備手法」と呼ばれる様々な施設整備の方法（PFI事業や地方自治体との連携等）のアイデアが各大学から出され、実際に施設整備が行われています。

Q2.なぜ国立大学法人等職員になろうと思いましたか。

キャンパス内には重要文化財に指定されるような歴史ある建物や、著名な建築家が設計した近代的な建物が混在する等、非常に魅力的な環境であること、また、Q1.で書いたように、施設の始めから終わりまでトータルに携わることが出来るということがあります。

しかし、最も大きな理由は、「建築」という自分の専門分野を通して、最先端の教育・研究を行っている優秀な教員や学生をサポートし、新たな発見に貢献したいと考え、国立大学法人等職員になろうと思いました。

Q3.仕事をしていて良かったことを教えてください。

テレビや新聞で、自分が働いている大学の教員や学生の研究成果を目にしたときに、仕事をしていて良かったと思います。大学職員は直接的に教

育・研究には携わりませんが、その基盤である施設を担当し、最先端の研究を行っている大学の教員や学生を支えているということを実感したときに喜びを感じます。

Q4.今後の仕事上の抱負を聞かせてください。

Q1.で書いた様々な業務を経験し、施設に関するコーディネーターになって行きたいと考えています。その中には、希望しない仕事、向いていない仕事があるかもしれませんが、それらを糧として自分の力にしていきたいと思っています。

Q5.第一次試験・第二次試験について教えてください。

技術系のうち電気・機械・土木・建築・化学区分の方は、第一次試験で教養科目の他に専門科目を受けることとなります。専門試験は、基礎的なことを問われるので、予備校の問題集等で、各分野を広く浅く勉強することが良いかと思います。また、第一次試験であなたが難しいと思う問題は、他の人も難しいと思っています。なので、焦らず冷静に解答して下さい。

第一次試験合格後は、面接を中心とした第二次試験を志望する機関ごとに受験することとなりますが、その前に志望する機関を訪れ、最近どんな建物が建ったかなどを調べておくことをお勧めします。面接官から、その期間の建物についての印象を聞かれるかもしれませんよ。

Q6.後輩へのメッセージをお願いします。

重複になりますが、施設の始めから終わりまでトータルに携わることが出来るというのは、広く建設業界を見回しても、非常に稀な職場です。建物について、様々なスキルを研いてみたいと思う方にとって、国立大学法人等職員は価値ある職業だと思います。

民間企業の就職活動と比べると、第一次試験が5月中旬、合格発表が6月末と遅く、就職活動で取り残されたような感じを受けるかも知れませんが、その分じっくりと腰を据えて試験勉強をすることが出来ますので、ぜひがんばって下さい。

所属課名： 施設管理課

名前： K. T.

性別： 男

Q1.今の仕事について、内容や担当を教えてください。

大きいものだと、建物等の改修といった工事の電気関係の設計や、工事費の予定価格の積算、工事現場の監督といったことをしています。小さいものだと、教員から照明がつかなくなったり電気が使えなくなったりしたといった連絡を受けて現場へ行き、調べてみると大体は照明の安定器が古くなっていたり、使い過ぎでブレーカーが飛んだりしているといったことなので、ブレーカーを入れ直したり、安定器を業者に頼んで交換していただいたりなどをしています。

その他、教員から依頼のあった電源の増設等の小工事の業者依頼等もしています。

Q2.なぜ国立大学法人等職員になろうと思いましたか。

学生という将来のある未来の卵の手助けになればと思い、何かあるかなと探していました。自分は電気区分で第一次試験に受かっていたので、電気区分に採用予定のあった現在の所属大学で設備関係の仕事に従事したいと思い、第二次試験で当機関を受けました。

Q3.仕事をしていて良かったことを教えてください。

設計や予定価格の算出、改修工事の仕事では、現場で設計とは微妙に差異が出て、それらの調整等を進めていく中は色々大変ですが、工事が無事に竣工して、地下の展示室が照明でキレイにライトアップされているのを見た時や、「学生さんに好評だ」と聞いた時は、それまで苦労した甲斐があったと思います。

Q4.今後の仕事上の抱負を聞かせてください。

まだまだ電気関係の知識でも至らない点が多々あるので、学んでいかな

ければならないところもたくさんありますが、電気関連だけでなく、機械設備や建築関係の知識も学んでいき、建物を全体的に見て、よりデザイン性が良く、かつ機能的な建物を設計出来るようになりたいです。それと、電気主任技術者やエネルギー管理士の資格等も取得していきたいですね。

Q5. 第一次試験・第二次試験について教えてください。

過去問集を買って来て、本番同様に時間を決めて解いていき、間違えたり詰まったりしたところの解説を重点的に見て復習をしていくということをしていました。面接は、人見知りするタイプで苦手なので、履歴書を出来るだけしっかり書いて、(内容は緊張していたためほとんど覚えていないのですが、) はっきりしっかり答えるようにだけは気をつけていました。

Q6. 後輩へのメッセージをお願いします。

諦めずに最後まで全力を尽くせば、きっと実を結びます。あとは、体調を万全に整えることも重要です。せっかく努力しても体調が悪ければ力を出し切れずに終わってしまいます。実際、僕は大学の入学試験のとき風邪で熱を出して失敗したこともありますので、持てる力の全てを出せるように、体調だけは崩さないように頑張ってください。

きっと
実を結ぶよ



所属課名：情報センター系

名前：M.H.

性別：男

Q1.今の仕事について、内容や担当を教えてください。

基幹システム&ネットワークの管理者としての業務(業者との連携含む)と、それに付随する各種アカウントの管理にはじまり、教職員や学生のヘルプデスク的な役割(スーパーコンピュータの使い方からワード・エクセル・メールソフトの使い方)まで、幅広く担当しています。最近「サーバ仮想化」に力を入れており、老朽化したハードウェア上の環境を新しいハードウェア上にそっくりそのまま移行したり、一時的に必要なウェブサーバをハードウェアの購入なしで構築するなどして、開発コストや購入費用削減に貢献しています。

Q2.なぜ国立大学法人等職員になろうと思いましたか。

大学には学生として長期間お世話になっていたこともあり、アカデミックな環境の中に職を見出したかったからです。

Q3.仕事をしていて良かったことを教えてください。

ニーズに合った新サービスを提案し、実現可能性や有用性をきちんと説明すれば、高価なコンピュータ機器類を購入し、設計から構築、運用までを任せてもらえる自由さがあることです。

Q4.今後の仕事上の抱負を聞かせてください。

長年に亘る継ぎ足しの繰り返りで、ネットワークやサーバシステムが複雑化していたり、それらの管理担当者の細分化によって、サービスを利用するための情報が古かったり分散してしまったりしているので、これらの情報を再構築して、利用者に公開する仕組み作りができればよいと考えています。

また、業務の中で得た知識やノウハウを技術レポートのような形で刊行

することによって、風化を防ぐとともに、情報の共有という意味でも役立てていきたいです。

Q5. 第一次試験・第二次試験について教えてください。

公務員試験対策というものをしたことがなかったので、試験前に国家種の試験対策問題集を一冊購入し、一次の教養試験の雰囲気をつかみました。専門知識がなくても何とかかなりそうな英語や国語に相当する分野と理系科目を正確に解くことに決めて本番に臨みました。

一次試験の結果発表後、いくつかの大学&機関から電話で面接(二次試験)の誘いをいただきましたが、業務内容と自分の経歴のマッチングを考えて、誘いを受けたひとつの機関で面接していただき、採用が決まりました。面接官は教員・事務職員・技術職員からなる7名ほどで、履歴書に書いておいたこと(具体的には大学で行っていた研究内容や自分の持っている技術)についていくつか質問されたので、丁寧に回答しました。

Q6. 後輩へのメッセージをお願いします。

全ての機関にあてはまることではないかもしれませんが、大学院や民間企業等での実務経験があり、ある程度の技術を持っている場合は、採用後すぐに仕事を任せられますので、やりがいを求める方にも適していると思います。



所属課名： 技術室（機械・制御系）

名前： Y.O.

性別： 男

Q1.今の仕事について、内容や担当を教えてください。

電子制御工学科の実験実習の授業（主に電気系の実験内容・高等専門学校1年～4年）において、指導や教員のサポートを行います。

基本的な流れは、理論・原理の説明 実験 データの整理 レポートを私に提出（翌週）と一貫して行います。

1、2、3年生の授業においては、私が実験テーマを通年で7テーマ任せ、教員3、4名+私のスタッフ体制で、40人程の学生を班分けし、各班に担当者が独立したテーマを教えます。そこに教員と技術職員の差はありません。

4年年生の授業はリーダーとなる教員1名が教室全体を進行し、他の教員3名と私がサポートする形式となります。

他には、地域企業と高専を結ぶ技術振興会*（現、企業会員210社）の管理、運営（HP管理、研究会毎に会員へメール配信、会場設営、名簿管理）も私の業務の一つです。

*技術振興会：当機関の教育・研究活動に対する協力が促進され、その教育・研究活動の成果が有効に地域産業界に還元されるような、相互の交流連携拡大を目的として設立されたものです。

Q2.なぜ国立大学法人等職員になろうと思いましたか。

教えるということが好きでしたし、当校は県内で高名な事が動機にあります。

また自己分析により、自分は民間より公務的な人間かな、と思っていた事も動機の一つです。即ち、利益の追求や業績にとらわれず、大きな枠組みの中で、自分のペースと裁量で仕事をする事ができるということです。

Q3.仕事をしていて良かったことを教えてください。

自分が大学等で学んだ専門知識を生かせる場ですし、自分の専門性を更に深められる恵まれた環境だと思います。また、学生と教員の輪の中で、楽しく仕事ができるので、人との繋がりを大切にできる環境でもあります。

人員の関係から、苦手な分野を担当する事も無くは無いです。自分のペースで学べる環境なので、自分の裾野を広げることもできています。そういった意味合いで、色んな担当分野を任される事は、良いことだと最近は感じています。

Q4.今後の仕事上の抱負を聞かせてください。

今の環境で勉強を続け、少しずつ知識を深め、広い分野に精通できるようになればいいな、と思っています。

Q5.第一次試験・第二次試験について教えてください。

私は金銭的な余裕が無かったので独学を選び、必要な参考書（数年落ちですが。。）を古本屋で全て揃えました（計2千円程、6冊）。教養試験と専門試験の難度は、国 や地方上級の問題と全く同等でした。従いまして、同じ対策で大丈夫です。

一般教養は広く薄く、全体を網羅した参考書を何度も繰り返し、最後の2カ月は国 の問題集で慣らしました。

専門科目は絶対の自信がありましたので、勉強時間は一般教養にウェイトを置き、最後の2カ月で専門科目の問題集を解きながら自分で解答作りをしました。専門科目は、ご自分の大学の講義ノートと教科書で十分に対処できます（参考書は不要）。

面接対策は、面接用の参考書を1冊熟読し、全ての質問例に答えを作りました。時事に精通する意味合いで新聞を読み、受験する機関についてよく調べ、頭に入れてください。上記により、国 と当採用試験は最終合格し、地方上級は3回の面接の最終面接（知事面談）まで辿り着けました。

Q6.後輩へのメッセージをお願いします。

私の考えですが、教える事が好きで、人付き合いを重んじ、ご自分で勉

強できる姿勢のある方は、この仕事に向いていると思います。

色々な問題や、自分にとって不得意な仕事も舞い込んで来ますが、それはどの仕事にも言える事ですし、責任を持ってやり切る事が大切だと思います。

全ての事が理想通りとはいきませんが、良い意味で裏切られる事が結構あり、日々、楽しく仕事をしています。つまり、どの職場においても、その環境に入ってみないと分からない事が大部分なのかな、と思います（ある程度の下調べにより、先見性は持てるとは思いますが）。

自分の気質と価値観が国立大学法人等の職員に合うようでしたら、ぜひ受験をして頂き、ご活躍下さい。

あなたの可能性、知の拠点へ



用語集

・合同説明会：p 5

関東甲信越地区では、例年、第一次試験合格発表の後の直近の日曜日（平成21年度は7月5日）に、東京大学を会場とし、関東甲信越地区内の機関が一同に集まって説明会を開催します。受験者の皆さんが、遠距離を移動せずに各機関の情報を一カ所で集めることができるのが大きなメリットです。参加の有無が採否に影響するわけではありませんが、この説明会で二次試験の予約を受け付ける大学等もありますので、参加されることをお勧めします。詳しい情報は、採用試験事務室HPでご案内しますのでご確認ください。

・支払伝票・入金伝票：p 11

支払いをしたとき・収入があったとき、その取引について記入する一定の様式を備えた紙片のことです。伝票は、取引に関する責任を明らかにし、後日の証拠ともなります。

・出納：p 11

金銭や物品の出し入れ（支出と収納）のことです。

・教務委員会：p 18

年間の学事日程や教育カリキュラム等を具体的に検討するために、教員や職員で打ち合わせる集まりのことです。学務委員会や学部教育委員会というような名称を使用している大学もあります。

・有休：p 1 8

年次有給休暇のことです。年間20日間（採用された年は別途規定）付与されます。前年度の残日数は、20日を限度として翌年に繰り越すことができます。詳しくは、各機関のHPまたは人事担当部署へのお問い合わせにてご確認ください。

・産学連携：p 2 5

“産”は産業界、“学”は大学等の教育や研究をする機関や学会のことを表し、お互いが協力し合って研究や技術者教育の促進を図ることです。例えば、大学と企業が共同研究をすることも、産学連携の一つの具体的な例です。

・外部資金：p 2 5

運営費交付金以外の資金を総称して「外部資金」とっております。

・公募：p 2 5

研究費のための外部資金は、政府など資金を配分する主体が広く研究課題を募り、研究者から提案・応募のあった課題の中で、採択されたものに対して配分されます。応募に係る手続きを事務職員が行っています。

・助成金：p 2 8

ここでは、研究への援助となるお金のことを総称しています。文部科学省による研究に対する援助として「科学研究費補助金」が有名ですが、財団法人等による研究助成金も多数あります。

・OG訪問・社内リクルーター制度：p 3 0

合同説明会以前に自分で興味のある大学等の情報を直接収集しても構いません。ただし、すべての国立大学法人等機関が、このようなOB/OG訪問・社内リクルーター制度を設けているわけではありませんが、個別の機関の人事担当へお問い合わせいただければ、現職職員の話

を聞く機会を設けるなどの工夫をいたします。

・在留資格認定証明書：p 3 1

混同しやすいものに、ビザ（査証）がありますが、これは、入国してその国に在留する資格を証明する推薦状のようなものです。一方、在留資格認定証明書は、ビザを申請するために必要な、さらに前段階の証明書です。本人または代理人が日本の入国管理局へ申請することになっており、多くの場合、日本の大学が外国人留学生の代理人となって申請しています。在留資格認定証明書が大学に交付されると、外国人留学生に送付され、本人が在外日本公館へそれを提示してビザを申請します。日本の空港で、旅券とビザを提示、在留資格認定証明書を提出し、入国の資格を得ます。

・積算：p 4 2

必要な費用を見積もって計算することです。

・施工監理：p 4 2

工事を監督・管理することです。

・保全：p 4 2

保護して安全であるようにすることです。

・マスタープラン：p 4 2

基本計画のことです。

・施設整備費補助金：p 4 2

国立大学法人の施設は、教育・研究の理念目標を具現化する重要な基盤であり、国家的な資産形成に資することから、施設整備の基本的な財源は、国の施設費補助金として措置されています。

・概算要求： p 4 2

次年度の予算要求のことです。国の予算編成にあたっては、各省庁が前年度の夏から秋頃までに必要な予算額を財務省に示し、それを財務省が取りまとめて、財務原案と呼ばれる予算の原案を作成します。

・PFI事業： p 4 2

Private Finance Initiative の略で、公共施設等の建設・維持管理・運営等を民間部門の持つ経営ノウハウや資金を活用することで、低廉かつ良質な公共サービスを提供することを目的とした新しい公共事業の手法です。導入の効果として、サービス水準の向上や事業コストの削減、官民の新たな協力関係の形成、民間の事業機会の創出がもたらされます。

・高専： P 4 8

高等専門学校。高等専門学校や短期大学、大学は、高等教育機関と言われ、学校教育法に定められています。

